

子どもとインターネット(5)

学校編



先生のご紹介

増田彰則

心療内科 増田クリニック

PROFILE

鹿児島市・増田クリニック院長。さつま町出身。内科学、心療内科を専攻。中でも疲労、痛み、うつ病、不登校、小児心身症、神経症などが専門です。

子どもが使うタブレット端末の

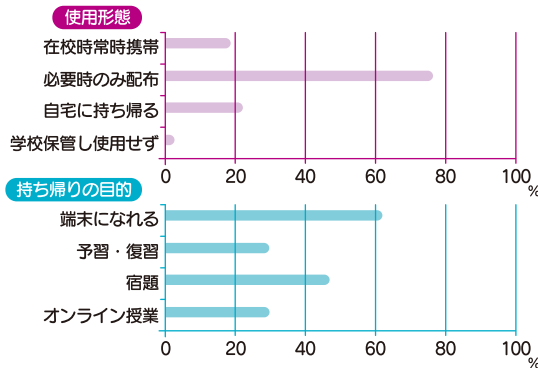
管理について考えましょう

現在、国をあげて子ども1人に1台のタブレット配布が進み、メディア機器を使った教育が進んでいます。家庭では、タブレットやゲーム機の使用について益々心配が増えてきているのではないのでしょうか。今回はそれについて考えてみましょう。

文科省はタブレットで紙の教科書の内容をそのままみられる、いわゆるデジタル教科書を2024年度から導入する予定ですが、これが学力向上につながる科学的根拠は現在のところないようです。逆に2015年にOECD(経済協力開発機構)に加盟している29カ国で学習到達度を調べたところ、パソコンの使用が長時間になるほど読解力や数学の成績は下がっていたと報告されました。

また、タブレットは脳の発達を妨げる可能性があり、紙と鉛筆を使って手で書くことは、脳の前頭葉の活動を活性化させるとともに読む能力と記憶を高めるとの報告があります。手書きでは先生の話

学校でのタブレット端末の管理



を聞いて、自分で考え整理しながらノートに書きます。タブレットは操作だけで瞬時に結果(答え)が出るため、じっくり考えず知識が脳に定着しにくいと言われています。手間をかけて脳に刻まれた記憶こそ、自分から吸収した知識として定着するのです。

タブレット端末の学校での管理ですが、75%の学校は必要時のみ子どもに配布していますが、在学中に常時子どもに携帯させている学校が約2割あり、さらに自宅に持ち帰らせる学校も2割余りある

ことが分かりました(図)。持ち帰りの理由として、端末になれるための6割、予習・復習や宿題など勉強が3〜4割あり、オンライン授業が3割でした。

コロナ禍をきっかけにネット・ゲーム依存症の子どもが増えているところに、学校からタブレットの持ち帰りについて許可されると、子どもが親の注意と指導に耳を傾けなくなるのが危惧されます。

子どもは衝動を制御する前頭葉の発達が未熟であり、自制する力、我慢する力は十分に育っていません。そのため「ゲームをしたい、動画をみたい」など欲求をコントロールできず、親や先生が注意しても隠れたり、反発して長時間してしまふことがあります。そこで学校に対して、①学校ではタブレット端末の使用ルールを作成して必要時のみ配布して、必要ない時は学校がしっかり管理する。②家への持ち帰りと家での使用は許可しないようにして欲しいと思います。

ネット・ゲーム依存症の家族会
毎月第3木曜日【参加料】1回1,000円【時間】10:00~12:00
【場所】ケアサポート清瀬【お申込】099-201-3600
月1回の、ネット・ゲーム依存の子どもをかかえた親の会です。
依存についての知識と対応の仕方を学びます。
参加希望の方はお電話ください。

http://www.masuda-clinic-kagoshima.com/
増田クリニック

TEL. 099-219-1155

〒892-0845 鹿児島県鹿児島市樋之口町2-24

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~13:00	○	○	/	○	○	○	/
14:30~18:30	○	○	/	○	○	○	/

受付時間：午前8:30~12:00 午後14:00~18:00
休 診：水・日・祝・お盆・正月

増田クリニック
携帯版HPに
アクセス
できます▼



からは、子どもの疑問や質問に対して、子どもの前でネットを開いて教えることは極力しないようにして下さい。そういう時こそ、本や辞書で調べたり、一緒に考えるようにしましょう。便利さを強調して、ネットで勉強する習慣を子どもの中から身につけさせるのではなく、自分で考え、声を出して読み、手書きで計算したり、何回も書いて覚える習慣をつけさせましょう。努力して得られた結果から自信が生まれ、それが将来生きていくための糧になるはずですよ。